

## CDC (Centers for Disease Control and Prevention: 米国疾病管理予防センター)

CDC は、米国保健福祉省 (DHHS: Department of Health and Human Services) 傘下の公衆衛生の向上と疾病の予防を担う機関である。1946 年に Communicable Disease Center (伝染性疾患センター) として米国公衆衛生局に設置され、当初の主な任務は蚊の駆除によるマラリアの撲滅であった。その後、役割の拡大とともに名称の変遷があったが、1992 年に現在の名称となった。略称は一貫して CDC である。

CDC の本部はジョージア州アトランタにあり、政策策定、疫学調査、緊急対応、研究開発、国際協力、情報提供を担い、多岐にわたる公衆衛生活動を統括し、全米及び国際的な公衆衛生の安全を確保する役割を担っている。

CDC は感染症対策だけでなく、慢性疾患、障害、傷害予防と管理、更には、公害、労働安全・衛生、薬物の過剰摂取、災害などの非伝染性公衆衛生問題にも取り組んでおり、それぞれの分野に専門のセンター、研究所を有し、研究機関としての側面と行政的な活動を担う側面を持つ、巨大な複合機関である。

CDC の主な役割は、

- 感染症の監視：国内外の疾病発生状況を検知し、データの収集・分析による予防及び早期対応を行う。
- 疫学調査・研究：米国民の死亡や障害の発生要因を科学的に分析し、政策立案に貢献する。
- 予防接種プログラムの推進：予防接種スケジュールの策定及びワクチンの開発と普及を行う。
- 健康教育・啓発：慢性疾患の予防と対策、健康で安全な地域社会の構築と環境を促進する。
- 地域医療への技術支援：公衆衛生従事者の訓練とリーダーの育成を支援する。
- 緊急時対応：パンデミック、自然災害発生時の公衆衛生上の危機への即応体制を整備する。
- 国際協力：WHO などの国際機関と連携し、現地での調査・技術支援を実施する。

CDC は米国内の各州の公衆衛生局 (State Health Department) などへ、感染症、自然災害、その他の様々な公衆衛生上の脅威に対応するための準備体制を強化するため、戦略的計画に基づく技術支援、人員支援、情報提供などの様々な支援を行なっている。

さらに、米国内だけでなく、海外に設置されているカントリーオフィスや地域オフィスを通して、各国政府及び国際機関と協力して感染症対策や健康増進活動を行なっている。

地域オフィスの一つとして、2024 年 2 月に在日アメリカ大使館内に「東アジア・太平洋地域オフィス」が開設された。

(森 曜子)